

VPR18-081

2018年9月19日(水)

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社

NO. 361/2018

(抜粋和訳)※原文(英語)については、日本語に続き掲載しております。

フォルクスワーゲン グループ、インテリジェント トランスポート システム(ITS)事業を拡大

- フォルクスワーゲン グループは、コペンハーゲンで開催されるインテリジェント トランスポート システム(ITS)世界会議で、都市のモビリティ ソリューションを幅広く提示
- フォルクスワーゲン グループは、未来の都市モビリティを自治体のパートナーとして 共同で実施
- フォルクスワーゲン グループは、インテリジェント トランスポート システムの展開を推進

2018年9月17日 ウォルフスブルグ

フォルクスワーゲン グループ(以下:VWグループ)は、コペンハーゲンで開催される、第25回 インテリジェント トランスポートシステム(ITS)世界会議(2018年9月17日~21日)で、人と物を インテリジェントに輸送する方法を幅広く提示します。フォルクスワーゲン グループと各ブランドは、 100を超えるパートナーで構成されるネットワーク、ERTICO(ITSヨーロッパ)のメンバー企業として、 ストックホルム近郊のイエルフエツラ、ハンブルク、バルセロナ、米国のサマーヴィルに至る多数の 都市と積極的に連携し、都市のモビリティを創出する具体的なプロジェクトを開始しています。 e-モビリティ、自動運転、あらゆる輸送システムのデジタル化やコネクティビティ、そして、新しい モビリティ サービスなどは、すべて都市における人と物のモビリティをより持続可能に、効率的に、 クリーンかつ安全にするために重要な役割を果たします。

フォルクスワーゲン グループで新規事業のためのグループ戦略を統括するルトガー フレッツェンは、 次のように述べています。「各都市、産業界のパートナー、公共機関や各協会と連携し、私たちは、 都市における人と物のモビリティを、より効率的かつ持続可能なものに変えていきます。ここでは 都市と住民のニーズを業務の中心に据えて、インテリジェント トランスポート システムの開発を強化 していくことがカギになります。これらの業務は、“TOGETHER – Strategy 2025”を成功させ、 フォルクスワーゲン グループが、自動車メーカーから、世界有数の持続可能なモビリティ プロバイダーへと変革を遂げる為の重要な柱になります。スポンサーおよび戦略パートナーとして、 私たちはITS業界における取り組みを大幅に拡大しています。」

フォルクスワーゲン グループは、e-モビリティ、自動運転、コネクティビティ、新しいモビリティサービスといった未来の主要なテクノロジーに対して、2022年末までに340億ユーロ以上を投資します。2025年までに、電動化モデルは80車種に達し、その内の50車種は完全な電気自動車となるでしょう。これらのモデルは、“Roadmap E”イニシアチブの一環として市場に投入される予定です。フォルクスワーゲンAG傘下のモビリティ サービス会社であるMOIAは、すでに今年の夏、ハンノーバーでアプリベースのオンデマンド ライドシェア サービスを開始しています。このサービスは来年、「MOIA+6」という電気自動車を導入し、ハンブルクでも開始されます。

2019年には、フォルクスワーゲンの子会社であるUMI(アーバン モビリティ インターナショナル)により、“We Share”と名付けられた電気自動車を活用するカーシェアリング システムなど、その他の車両オンデマンド サービスも開始されます。また、新しく革新的な都市車両コンセプトとマイクロモビリティ ソリューションも来年第1四半期発表される予定です。その一例としては、人々を音もなく、ゼロエミッションで“ロエミッションで人”の足とある“Cityskater”が挙げられます。

また、フォルクスワーゲン グループは、インフラとエネルギー関連のソリューションに関しても業界の先駆けになろうとしています。IONITYとともに充電インフラの拡大に取り組んでいます。合併事業のIONITYは、2020年までに、ヨーロッパの高速道路沿いに急速充電ステーションを約400カ所設置することを計画しています。フォルクスワーゲン グループは、本社所在地であるウォルフスブルグで、電力をスマートに使用し、都市の電力網の安定化につながるエネルギー管理システム(マイクログリッド)の導入に取り組んでいます。また、自動化のスペシャリストであるKukaと協力して、電気自動車用のモバイル急速充電ロボットを開発しています。将来、“CarLa”と呼ばれるこのロボットは、公共駐車場に停めた電気自動車を簡単、迅速、自動的に充電してくれるでしょう。2019年以降は、量産車に無線通信規格のWLANpテクノロジーを搭載することで、車車間及び周辺環境との通信が可能になり、全国的に交通安全と交通の流れが改善され、CO2排出量の削減も期待されます。フォルクスワーゲン ファイナンシャル サービスは、独自のモビリティ事業部を立ち上げて、スマートパーキング、給油および充電カード、道路料金支払いサービス、レンタカーおよびカーシェアリングといったサービスの提供に取り組んでいます。スカニアは、スウェーデンの子会社であるスカニアサステイナブル シティ ソリューションとともに維持可能な都市モビリティへの移行を目指しています。スカニアは、人と物、そして、廃棄物の流れを向上させ、クリーンで、静かで、安全な都市の実現を目指したソリューションを開発しています。具体的には、自動運転によるシームレスな共同輸送システムや、通勤者向けのクラウドベースのマルチモーダル型モビリティサービスである“Scania Go!”などが挙げられます。

自動運転も重要なテーマになっています。フォルクスワーゲン グループは、「SEDRIC(SElf-DRiving Car)」、アウディブランドは、「AICON(アイコン)」、フォルクスワーゲンブランドは、「I.D. VIZZION(アイ.ディ.ビジョン)」といった革新的な車両コンセプトにより、完全自動運転の潜在的な利点を提示しています。自動運転システムの将来の目的は、豊かな生活のための時間を取り戻し、人生の質を向上させ、交通渋滞でのストレスを緩和することです。

ハンブルク空港では、フォルクスワーゲン、アウディ、ポルシェが、包括的なサービスを提供するアプリベースの統合型自動パーキング コンセプトを提示しました。これは、自動運転実現のための重要なステップになるものです。このプロジェクトは、自由ハンザ都市であるハンブルクと締結した

戦略的モビリティパートナーシップの一環として立ち上げられたものです。2016年から始まったこのパートナーシップは、共同事業の計画、具体的な試験の実施、そして、ハンブルクを未来での持続可能で統合された都市モビリティを備えるモデル都市として発展させるという目的を持っています。このパートナーシップでの大きな節目としては、2021年に予定されているITS世界会議の開催時に、ハンブルク市のメインパートナーとして支援することです。

共同作業を実施して未来の都市モビリティを形成

世界有数の持続可能なモビリティプロバイダーになるという道筋で、優れた都市モビリティを形成することは、フォルクスワーゲングループが掲げる“TOGETHER – Strategy 2025”の中核的な戦略として定義されています。未来のモビリティは、まずは都市から提供されていきます。UNOによると、2050年までには、世界の人口の約70%が大都市に住むと推定されています。そのような大都市は、こうした問題の解決が急務になっていますが、変化の可能性がもっとも高い場所でもあります。そのため、フォルクスワーゲングループは、都市とのパートナーシップを強化しています。様々なプロジェクトが、すでに世界中のいくつかの都市パートナーシップで開発、テスト、実施されています。

- フォルクスワーゲン商用車 (VWN) は、ハノーバー市と共同で“Urban Logistics”というプロジェクトイニシアチブを主導し、コーディネートしています。その目的は、クリーンで静か、効果的で未来に適用可能な都市の物流コンセプトを開発し、検証するというものです。都市での商用車の交通分析では、最初に最適化の可能性を判定して、新しいコンセプトを導入する前に、その影響を評価します。
- 米国・ボストン郊外のサマーヴィルでは、アウディブランドが、自動運転とモビリティシェアサービスによる交通の流れや都市開発への影響を検証しています。
- バルセロナでは、セアトブランドが市と協力して、安全、効率的、持続可能でバランスの取れたモビリティを促進するという4つの目的で、都市モビリティ計画に取り組んでいます。セアトメトロポリス: Lab Barcelona (ラボバルセロナ) は、効率的なモビリティを目指して、“About it”アプリを開発しました。このアプリは、さまざまな機能に加え、電気自動車の充電ステーションの位置、Bicing自転車レンタルシステムの場所、そして都市部での事故を意味する黒いスポットなどを表示できます。
- ドレスデン市とのパートナーシップでの焦点は、公共スペースでの電気自動車の充電インフラの拡充です。フォルクスワーゲングループとドレスデン市は、2022年までに、充電および急速充電ステーションを250か所まで拡大することを目指しています。このパートナーシップの目的は、ドレスデンをe-モビリティ、デジタル化および革新的フリート管理(カーシェアリング)面でのモデル都市として成長させることです。

Volkswagen Group expands its activities for Intelligent Transport Systems (ITS)

- The Volkswagen Group presents a wide spectrum of urban mobility solutions at the World Congress for Intelligent Transport Systems (ITS) in Copenhagen
- Shaping the urban mobility of the future as a joint task: Volkswagen Group as a strong partner for cities
- The Volkswagen Group to drive the future deployment of Intelligent Transport Systems

Wolfsburg, 17 September 2018 – The Volkswagen Group is presenting its activities in the intelligent transport of people and goods at the 25th ITS World Congress in Copenhagen (17 – 21 September 2018). As a member of ERTICO – ITS Europe, a network of more than 100 partners, the Group and its brands are partnering actively with cities to implement concrete projects shaping urban mobility – from Järfälla near Stockholm through Hamburg and Barcelona to Somerville in the USA. E-mobility, autonomous driving, digitalisation and connectivity of all transport systems and new mobility services are important levers to make the mobility of people and goods in cities more sustainable, more efficient, cleaner and safer.

Ludger Fretzen, Head of Group Strategy for New Business at the Volkswagen Group, says: “Together with cities, industrial partners, public institutions and associations, we will make the mobility of people and goods in cities even more efficient and more sustainable. To us, it is key to put the needs of cities and citizens at the heart of our activities and to intensify them in the development of Intelligent Transport Systems. They are a core pillar to implement at our ‘TOGETHER – Strategy 2025’ successfully and to enable us to transform ourselves from a pure OEM to a globally leading provider of sustainable mobility. As a sponsor and strategic partner, we are significantly expanding our commitment to the ITS industry.”

By the end of 2022, the Volkswagen Group will have invested more than 34 billion euros in core future technologies like e-mobility, autonomous driving, connectivity and new mobility services. By 2025, 80 new electrified models, out of it 50 fully electric vehicles; will be launched in the market as part of the “Roadmap E” initiative. This summer, MOIA – the “Mobility as a Service” company of Volkswagen AG – has introduced an app-based, on-demand ridesharing service in Hannover. Next year, this service will be operated for the first time in Hamburg with MOIA+6 fully electric vehicle. Other vehicle-on-demand services will

be launched in 2019 – for example the 100%-electric car sharing system-offer “We Share” from Volkswagen subsidiary UMI Urban Mobility International. Other new and innovative urban vehicle concepts and micromobility solutions will also be introduced beginning of next year, like the Cityskater that will transport people noiseless and locally emission-free on their last mile in the city.

The Volkswagen Group is also active in pioneering infrastructure and energy solutions. With IONITY, the Group commits to expand charging infrastructure. The joint venture plans to set up around 400 fast-charge stations along European motorways by 2020. At the Wolfsburg site, the Volkswagen Group is currently working on implementing energy management systems (micro grids) able to steer electricity smartly and to stabilise city grids. The Group collaborates with the automation specialist Kuka to develop the first mobile charging robots for e-automobiles. In future, “CarLa” will charge parked e-vehicles easily quickly and autonomously in public spaces. By featuring its Group volume models with WLANp technology from 2019 onwards, the Group makes its vehicles communicate directly with each other and with their surrounding environment, which creates a nationwide improvement in traffic safety and traffic flow as well as a reduction in CO₂ emissions.

Volkswagen Financial Services is also engaging and set up an own Mobility Unit to offer solutions like smart parking, fuel and charge-cards, as well as toll services, and rental and car-sharing models. With Scania Sustainable City Solutions, the Swedish subsidiary strives to drive the shift towards sustainable city mobility. Scania develops solutions to enhance the flow of people, goods and waste for clean, quiet and safe cities like for example autonomous seamless shared transport systems and Scania Go! – a multimodal cloud-based mobility service for commuters.

Another core topic is autonomous driving. The Volkswagen Group is demonstrating the potential benefits of fully autonomous driving with innovative vehicle concepts such as SEDRIC (SElf-DRiving Car), AUDI AICON and the Volkswagen I.D.VIZZION. In the future, the aim of the self-driving system is to give people back living time and life quality, as well to reduce stress in traffic. At Hamburg Airport, Volkswagen, Audi and Porsche have demonstrated an app-based integrated autonomous parking concept with all-round services

– an important step on the way to autonomous driving. The project is part of the most comprehensive strategic mobility partnership with the Free and Hanseatic City of Hamburg. The collaboration started in 2016 with the aim to plan joint cooperation projects, carry out concrete implementation tests and develop Hamburg as a model city for future, sustainable and integrated urban mobility. A milestone in the partnership will

be the support of the Group to Hamburg as main partner in hosting the ITS World Congress in 2021.

Mobility of the future as a joint task

On its way to becoming a globally leading provider of sustainable mobility, shaping urban mobility has been defined an integrative part of Volkswagen Group "TOGETHER – Strategy 2025". The future of mobility will first and foremost be implemented in cities. According to assessments by the UNO, almost 70 percent of the world's population will live in big metropolises by 2050. This is where the problems are most urgent, and yet at the same time where the potential for change is the greatest. The Volkswagen Group therefore seeks to being a strong partner for cities. A very wide range of projects is already being developed, tested and implemented across the world in several of its city partnerships:

- In collaboration with the City of Hannover, Volkswagen Commercial Vehicles (VWN) is leading and coordinating the project initiative "Urban Logistics". The objective is to develop and test clean, quiet, effective and hence future-proof logistics concepts for cities. An analysis of the urban commercial traffic will be firstly led to identify potentials for optimisation and to assess the impact of new concepts before implementation.
- In Somerville, a town in the middle of Boston's urban sprawl, the Group brand Audi is simulating the impact of autonomous and shared mobility services on traffic flow and urban development.
- In Barcelona, the city authorities and the Group brand SEAT are working together on an Urban Mobility Plan with the four objectives of promoting mobility that is safe, efficient, sustainable and well-balanced. The SEAT Metropolis:Lab Barcelona has developed the "About it" app in the area of efficient mobility. Alongside other functions, the app displays the locations of charging stations for electric vehicles, stations of the Bicing bicycle rental system and accident black spots in the city.
- A focus of the city partnership with Dresden is the expansion of the charging infrastructure for e-cars in the public space. By 2022, both partners are striving to expand the charging infrastructure to as many as 250 charging stations and quick- charging stations. Aim of the partnership is to develop Dresden into a model city for e-mobility, digitalisation and innovative fleet management (car sharing).

VOLKSWAGEN

AKTIENGESELLSCHAFT

About the Volkswagen Group:

The Volkswagen Group, with its headquarters in Wolfsburg, is one of the world's leading automobile manufacturers and the largest carmaker in Europe. The Group comprises twelve brands from seven European countries: Volkswagen Passenger Cars, Audi, SEAT, ŠKODA, Bentley, Bugatti, Lamborghini, Porsche, Ducati, Volkswagen Commercial Vehicles, Scania and MAN. The passenger car portfolio ranges from small cars all the way to luxury-class vehicles. Ducati offers motorcycles. In the light and heavy commercial vehicles sector, the products include ranges from pick-ups, buses and heavy trucks. Every weekday, 642,292 employees around the globe produce on average 44,170 vehicles, are involved in vehicle-related services or work in other areas of business. The Volkswagen Group sells its vehicles in 153 countries.

In 2017, the total number of vehicles supplied to customers by the Group globally was 10,741 million (2016: 10,297 million). The passenger car global market share was 12.1 per cent. In Western Europe 22.0 per cent of all new passenger cars come from the Volkswagen Group. Group sales revenue in 2017 totalled €231 billion

(2016: €217 billion). Earnings after tax in 2017 amounted to €11.6 billion (2016: €5.4 billion).